筑波庵詠

四季乱題

いけるうれなきせうりうたちる橘
去年物り貝売けるし逢うれ
おきうもて月の入るやゆれる山
雨のうち先春うみ雨れる二月かな
くう花日南ふるあるすて笛
雨の聲近くと蛙蛍れ花
形ひくき家のみ雨清水の蘭
寒さうや窟屋の蕾小日数ゆる
鍋ひるあるれ菓子雨了奈
見りむくうろい麦の月秋れ
あえの宿れぶいゆせし乙雨の巣

土浦
子万雪
里数
後有
茶屋
森石
夜哺
鬼蝶
机魂
鏡奥
静保
安食
須永
本々
得雨
関裏

鳥うの事のなかにあ中一ときき枯野うの
侘しさや市の中なる西行もれ雪
雲のうら孫の竹すえ日和れ行くかた奈
十月の日南の方の雨一の郭
鶯うう入物ハ嘆うう　合歓義
天河つひに秋のうう事多
秋の冥古行うう庵ゆく
うう(ゆ)うう時雨の雲や行きの月
鶴鐘ハ望うう麦を時日う南
うう水九夜を入る月を明り巴
西方実物や世一の書屋ま川の雨
ちるまゝの月ハ花を去る夜部
うう彦根の月ハ出る絶すれ
半過のあう影て分入る南堂
帝垂うう初雪り下高折麦

本口 嵐水
大阪 一巴
関本 曙雲
、 埜人
、 汉介
、 花友
、 洗心
、 看垂
、 巴堂
結城 水石
、 晩舟
、 詩物
、 士英
、 呼童
、 和鶴

秋うの穂や白扇きハあうう松を
仮を見の月ハ見ていうう草根うれ
ちうきう梨外ようのな野の夜
世一のあ江雨ちうて降日かう
ゆ義の山ちやくとて日ハ
あ事ハのや花の中ちう桂
西うきや月のうう小ちの京
山の腰ハのう雪ハうてすう西
ちうきうう南の日和れうう夜
いつうう入月を言うう　猪山
初うすうう作くのけう多風
ううれ雁ハうすむう虫の声
ううひすや蔦うてて雲ハ京
ううすきうの色ちや去の雪
鶴原川ちうき麻の流れ事侍

、 武良 野沒
盤素
、 如竜
関宿 走蔵
山ち 造杖
、 雪山
和田 孤山
、 文載
、 宗雪
、 柳舎
深田 方舟
北高 梅馨
江戸 山松
葛西 中川
、 廿義可

[illegible]の[illegible]もの[illegible]
[illegible]や海を[illegible]ふ[illegible]れ時
ひとりぬ[illegible]の松[illegible]き枯[illegible]ふ
一しぐの[illegible]
秋[illegible]やゆ[illegible]日れ[illegible]るみ[illegible]の松
鳥[illegible]れ[illegible]れ枝のあらしあさの雲
[illegible]の[illegible]
[illegible]の葉[illegible]ちぬ[illegible]花
[illegible]や[illegible]清水[illegible]
山吹や[illegible]滝の音
雪の[illegible]や[illegible]
あ[illegible]や[illegible]川の橋[illegible]
[illegible]橋[illegible]
蛙[illegible]池ふ[illegible]新[illegible]
加茂の岳の雨[illegible]夏月

江戸代 蓮殘
蓮間 血桂
、 松泉
、 流枕
下館 数梅
小条 抹石
、 女 露蝶
、 野忠
男神 中花
水ち 洛川
神弘 追文
、 花東
、 吐雲
、 紫浪
竜崎 [illegible]

木槿咲く秋[illegible]
梨の[illegible]夜[illegible]
[illegible]の中[illegible]
[illegible]秋の作[illegible]
葛のはや[illegible]
志[illegible]や[illegible]風の雷の[illegible]
入[illegible]や[illegible]の[illegible]
素[illegible]や小[illegible]
あ[illegible]や[illegible]春け[illegible]
掛葉に霜の[illegible]神[illegible]
[illegible]の[illegible]
小山[illegible]
[illegible]雪の[illegible]
[illegible]引[illegible]
[illegible]咲く[illegible]
稲つ[illegible]や[illegible]の奥

、 由支吉
、 義六
佐京 袋牛
水戸 義宝
大嶋 梅雪
牛久 石龍
尼倉 寄連
、 柳尾
筑波 敬阿
、 俳融
、 滝泉
、 琴巣
、 竜白
水海戸 山京
白綺

世をとるの小角や花の面
須臾うつろふきはにてと飛む　府中　鬼雀
夏きしや秋入りのせいの風の葉　花光
さるの月を世はたのもしく病のうち　三穂
詩魂り文うつる病や言問の　栄支
若葉吹う紫ちるき去る南　亀栖
蛍うれ来て虫葉の裏を学ぶ　田伏
わうそしく月のまゝにうふ亀　朝翠
稲妻や内きけなく川のおも　山有
花の雲ものかすり月のかけゆく　小田　青羅
雲しく面のゆふ蝉一杜を時　盧樂
おきたく登るや清一山　眠霍
初るの蛍ふ松うの谷輝る山　毛人　麦水
松ハうものなるうの花うの刑　虚吳

補助　平沼　小条　可笑　眠石

笑ものうちうけく時小雨る西
雨降く初うもあるう夏のとき　山水
ぬれて日の白ひ清しきのよ山　露丸
月をてのうすきもとうの色　吐嵐
花よ日のうもきのせうの形　五十連
ちりの花ハ時ものうの時　公木
水よ日れ初うるおちうの色世系　月兎
うるれる雨の風情の松露る　蟬子
春ものや鶯ものうる岸乃蛍　常雨
ちううまのあ蛍うもうまの花　真蝶
山吹よひうもてりもうとなる　小田　遊星
ふとうふ日の入る家や冬れ光　都夕
芹上く藻の上白ふあうを　盧乃
日のすちや表れあうきのうて家　紫烟
風薫る方ものうる方南　壺仙
　　柳葉

[illegible] 氷ノ邦
萩咲くや清水の流れ
秋風や裾濡れの里井戸の底

庵裡　文義
井里
能阿

應久

[illegible]
[illegible]

筑波庵
翠兄

文化之三季云歳之四月朔日

催主　柳葉
補助　筑波根
連

天　眠石　伍　十六点
地　以介　仝
人　和暢　十五点

下畧

惣連百四葉

紀月沈句合

六条殿判

六条殿

毛詩

山崎宗鑑

六条殿

山崎宗鑑

六条殿

六草菴評月次句合

乙亥九月分

天 海のたよ[illegible] 下谷 峨堂

地 [illegible]大指 [illegible] 嵩蘭

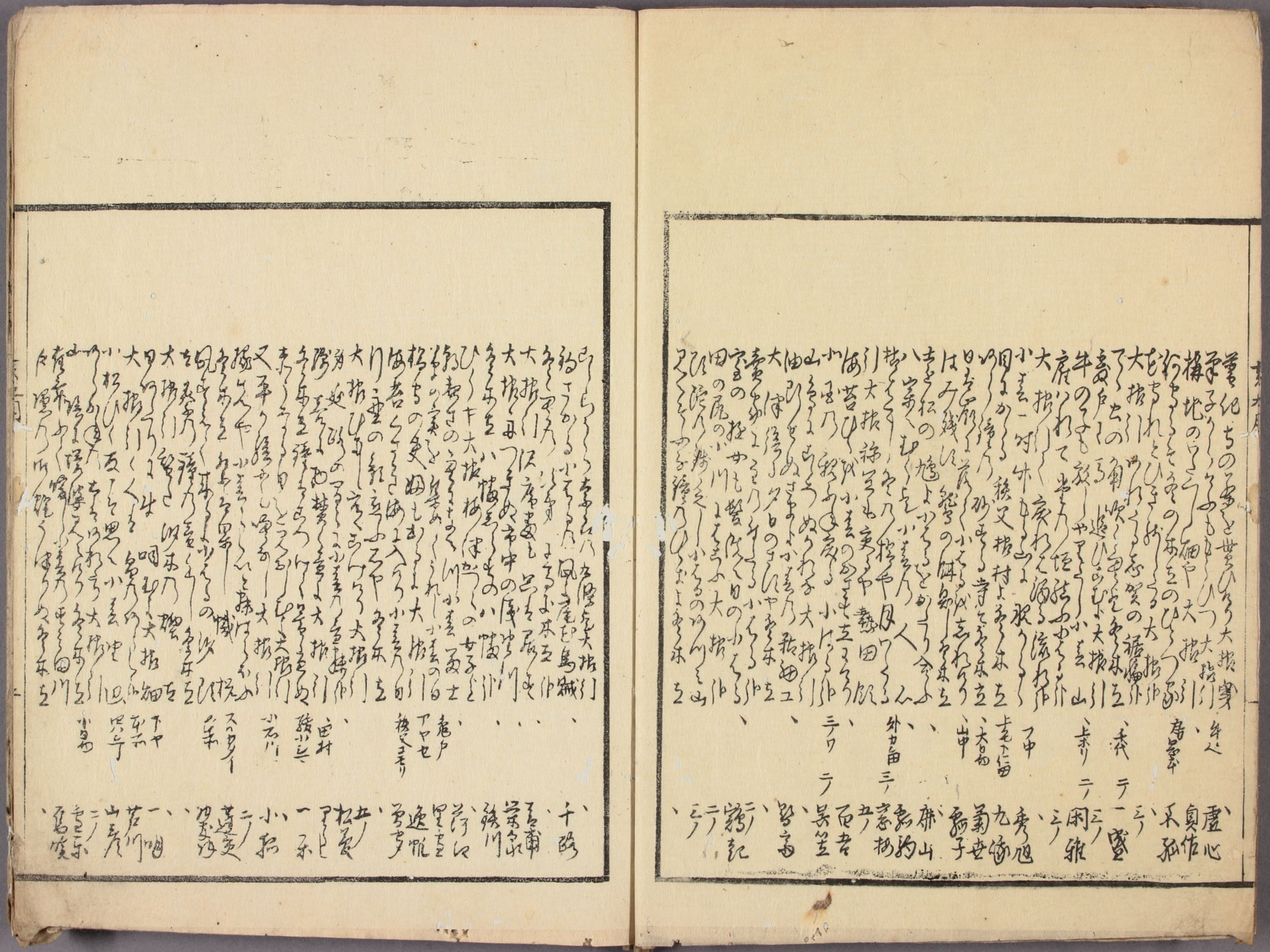
人 [illegible] 武州戸 壺中

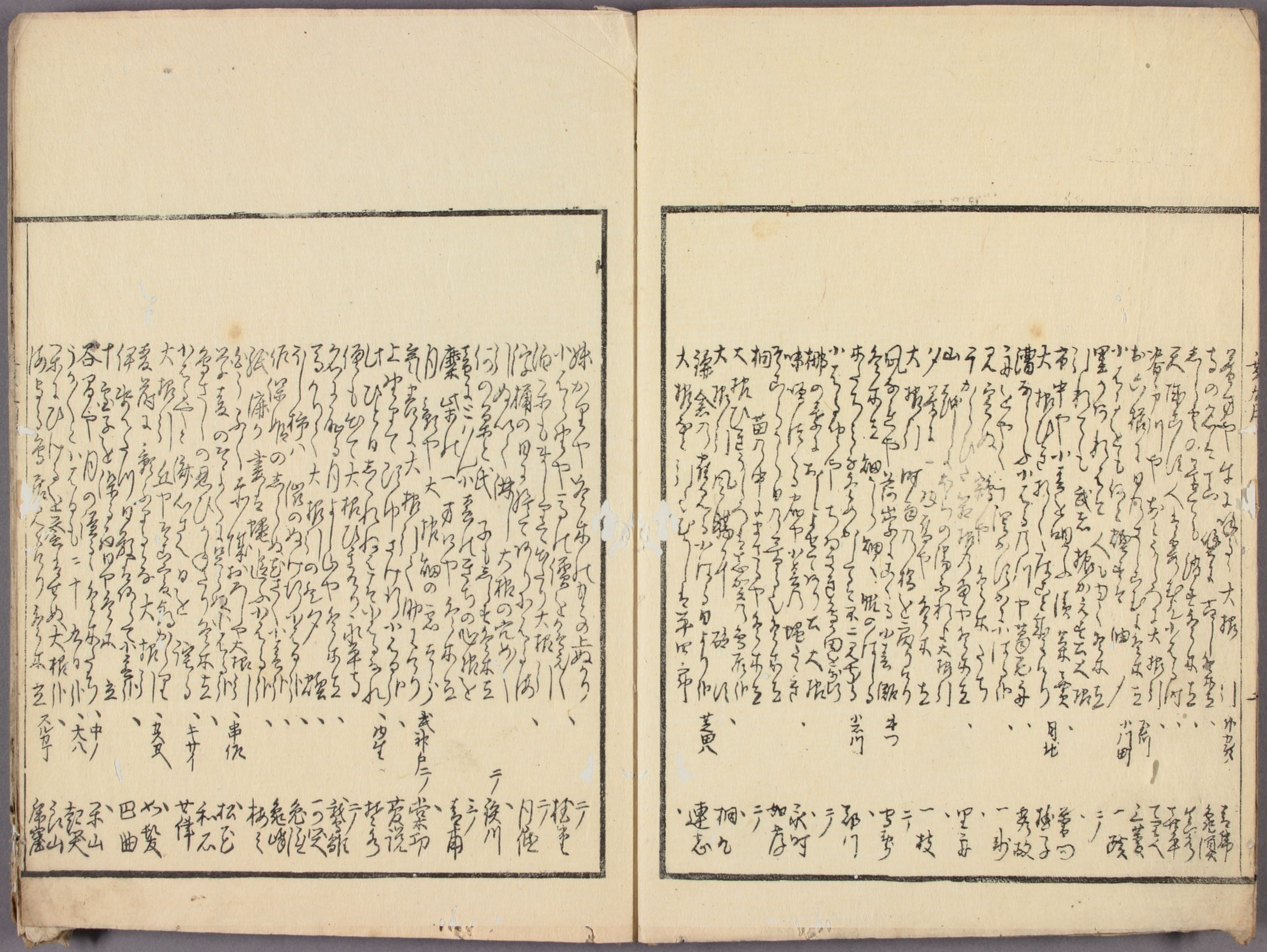
[illegible]

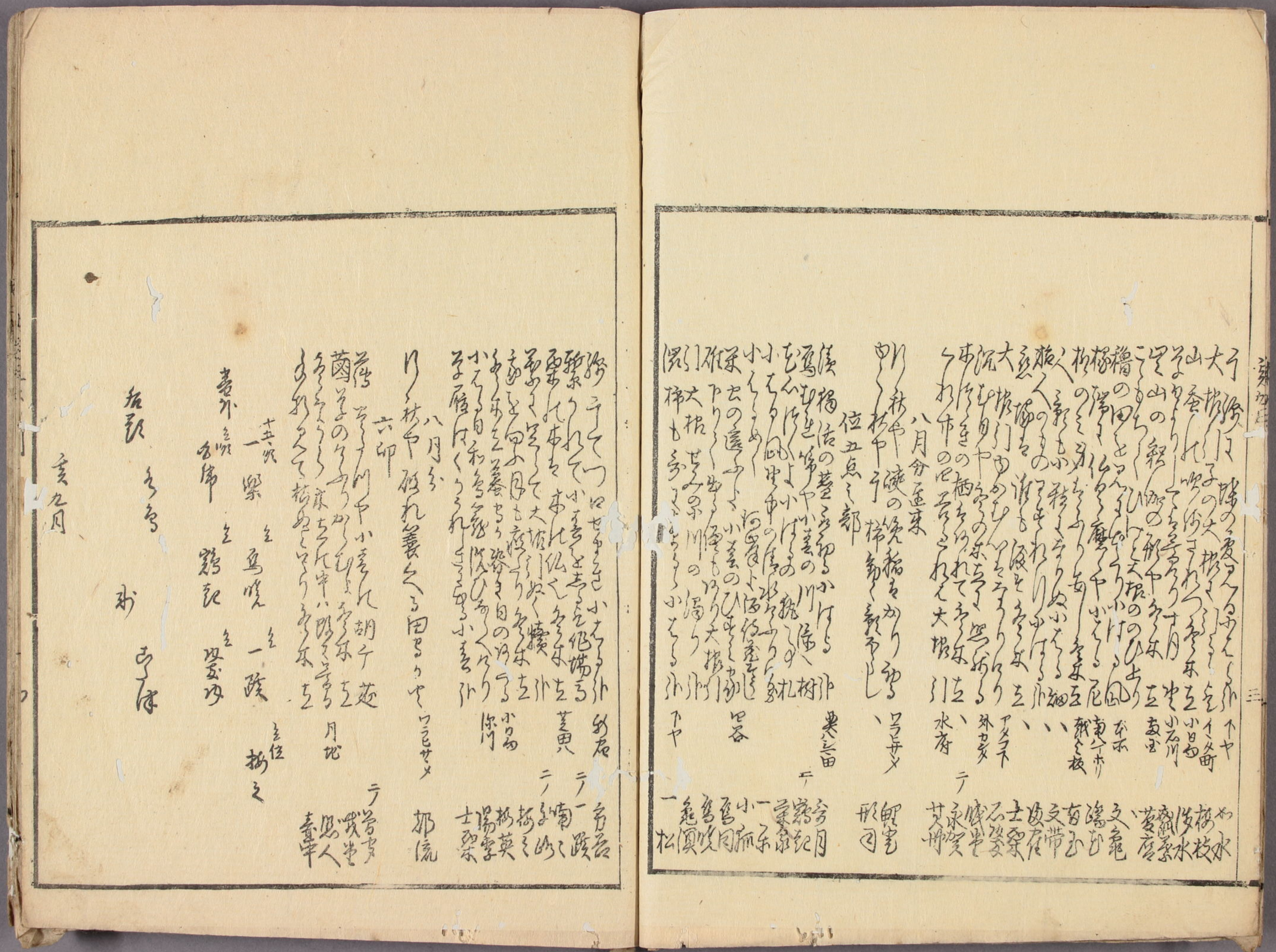
六草菴評

月次句合

全







乙亥
月次句合

六芳庵判

催主

梅屋
川秋
日和

或槌ハ室おもに
つちて分し
せらてらめの
頭中まう川

槌

新古今

人位

地位

天

六草庵評月次句合

乙亥三月分

外六句

五点之部

小月　如孝

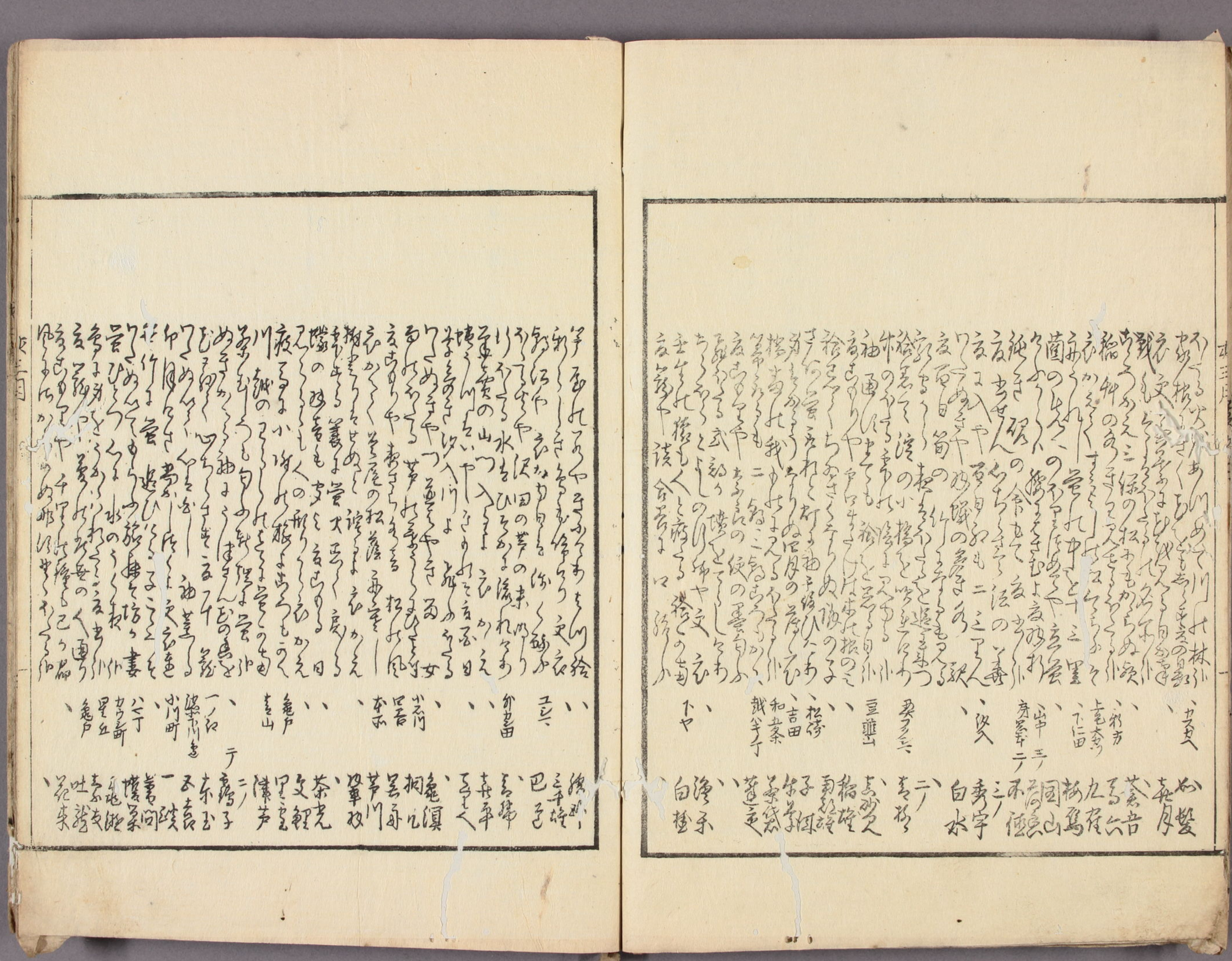
小谷　仙路

上東信　蘭石

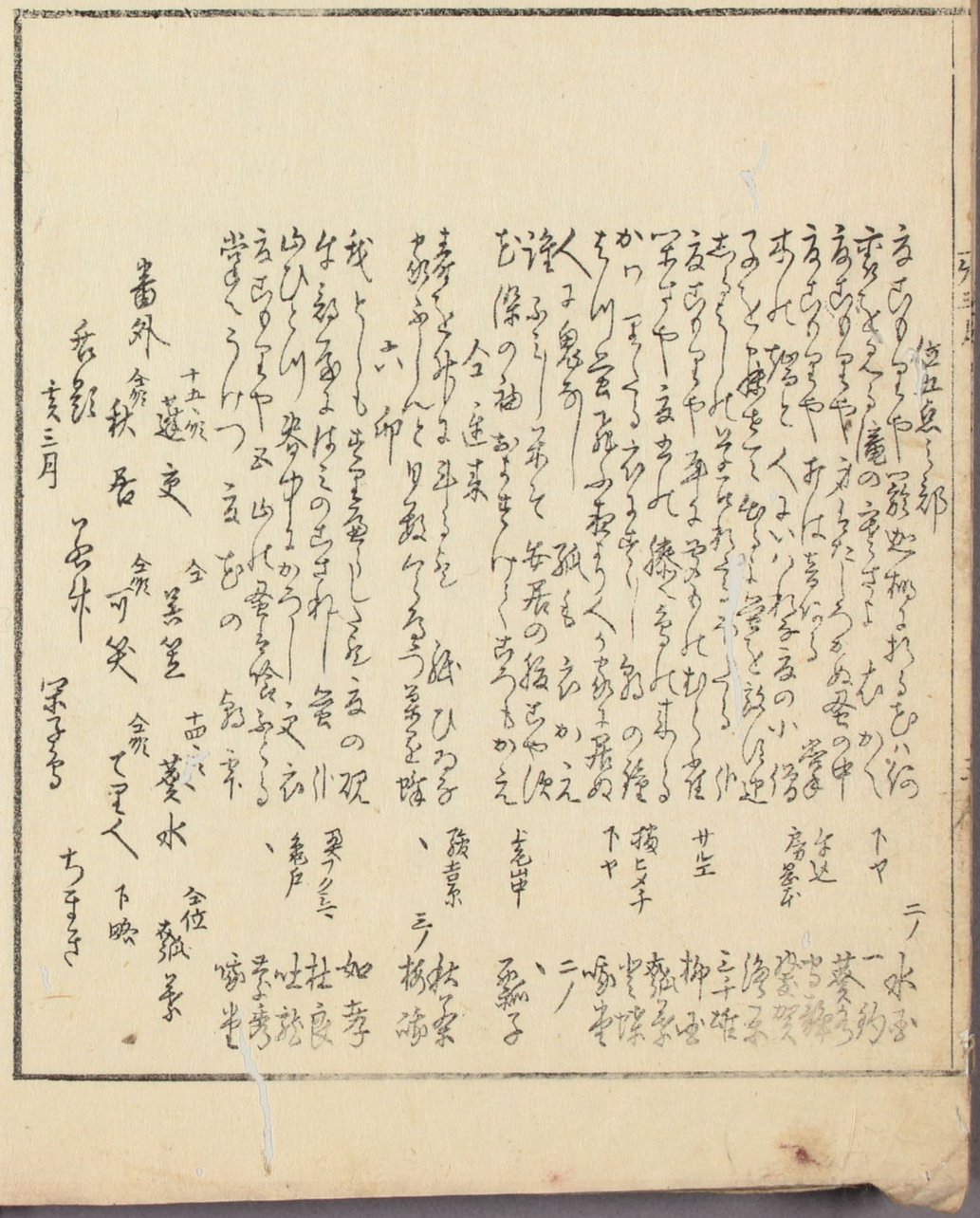
下ヤ　三ノ水面
阪三之
四十子　子陽
三ノ山青　葵水
小島　清本
尾山　流
秋居

武田　柳尤
崇功
楚水
一ノ天

去松
二ノ毫涯



六芳庵句合
俳諧文庫



智者頭巾逸本堂
愚者髪智苦其身

稲妻や俤子見せる
六草庵 清鴻

六草庵評月次句合
戌七月分

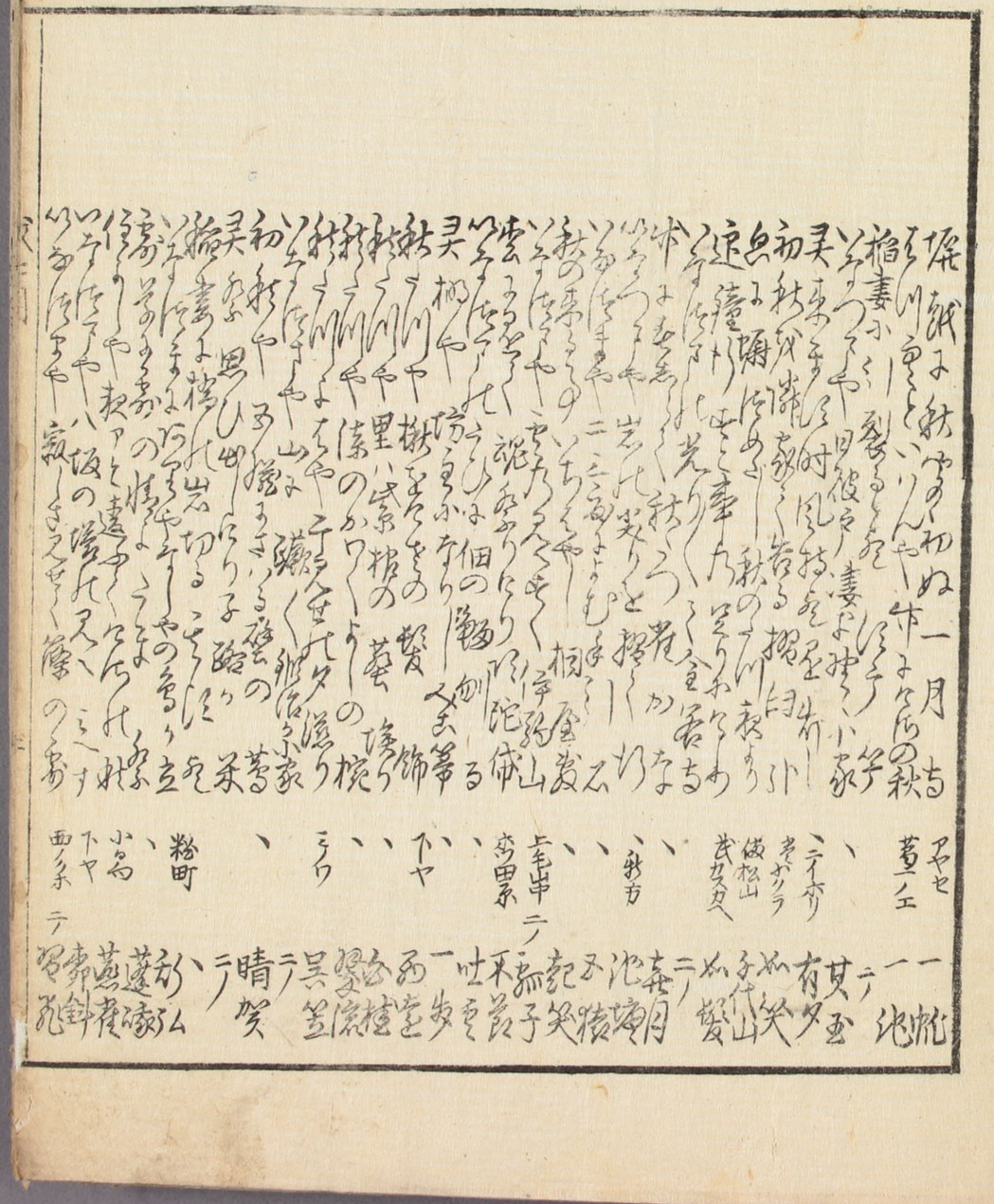
天 頭 全
地 全
人 全

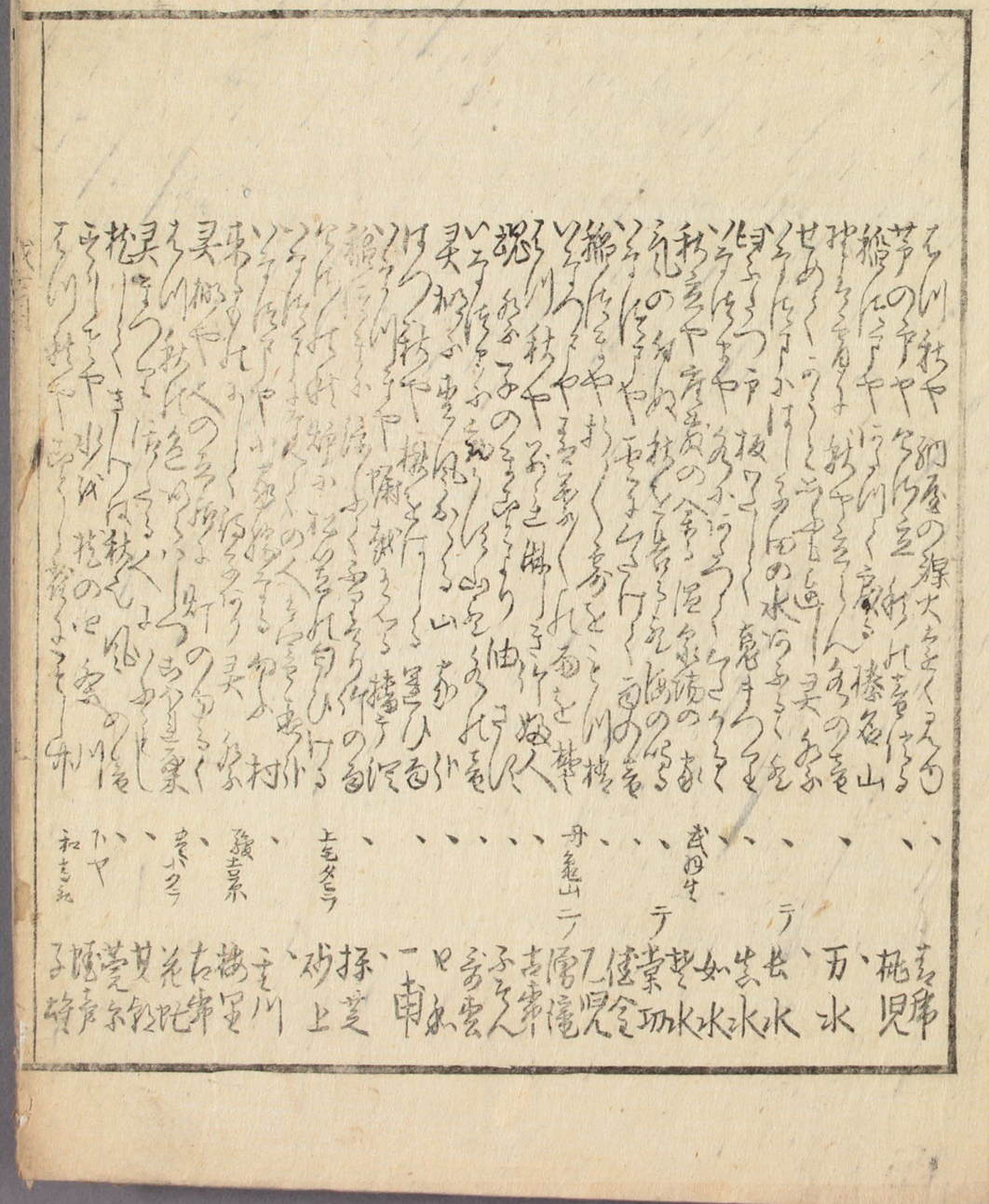
一子の乳房は秋の嵐哉　検又スギ　頭松
稲妻や小家もたまよ人の名大果　下石　左禁
稲妻や人の名大果　全　仙路

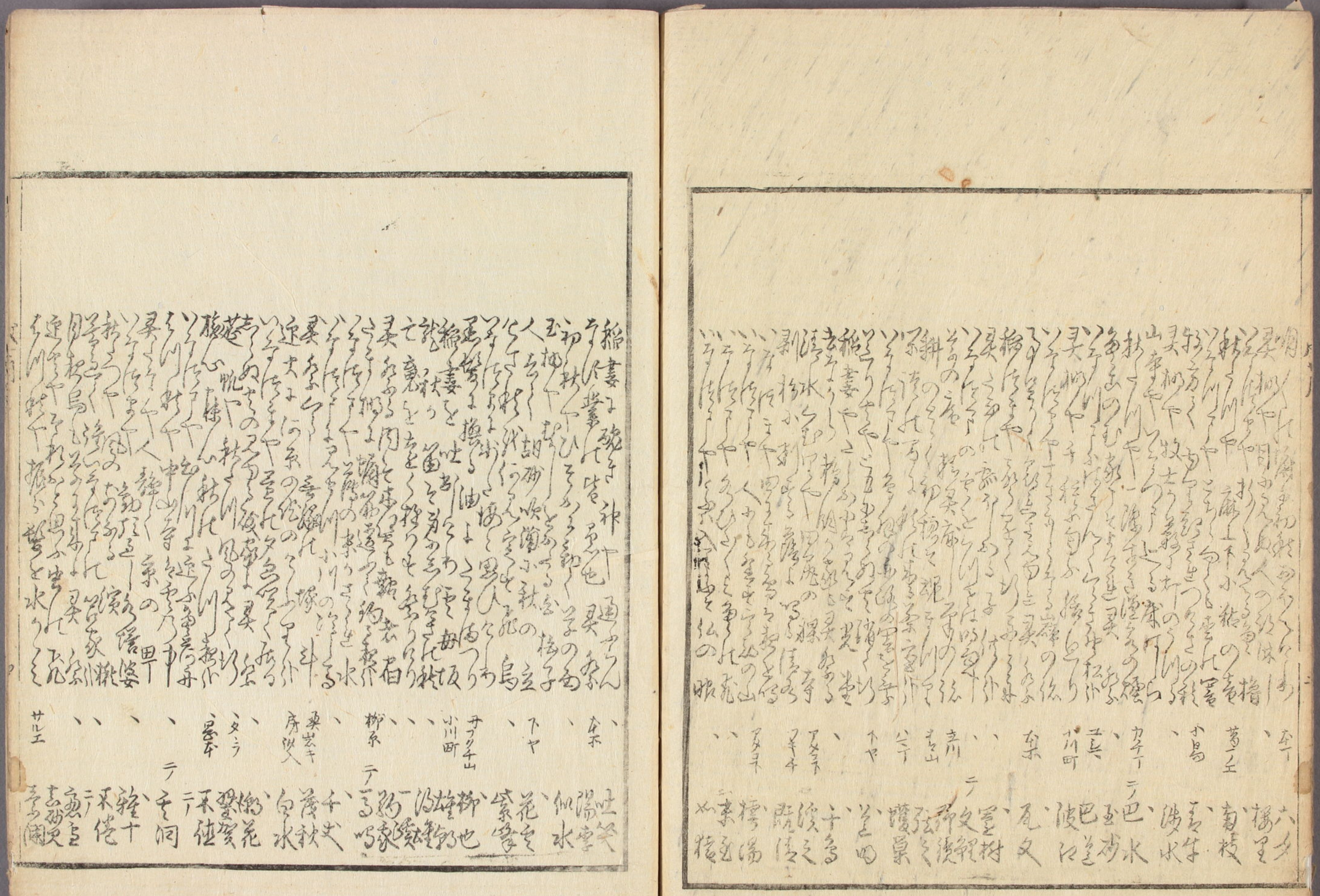
一秋の虜小さく入る七夕の書
歳の山の小さく入る七夕の書
いつの紙の籠の海の秋や色
湯桶の紙の籠の海の秋や色

立京ゝ部遅来ゝ高来頃

稲妻よ秋や乳房の月の花　蓑
稲妻や秋の月の花ひとり　力
稲妻や秋の月の花ひとり　南雲
稲妻や秋の月の花ひとり　下ヤ
稲妻や秋の月の花ひとり　茶ゝ
稲妻や秋の月の花ひとり　ゝ
稲妻や秋の月の花ひとり　豆葉山
稲妻や秋の月の花ひとり　ゝ
稲妻や秋の月の花ひとり　検ヤ
稲妻や秋の月の花ひとり　ゝ
稲妻や秋の月の花ひとり　ゝ
稲妻や秋の月の花ひとり　ゝ
稲妻や秋の月の花ひとり　ゝ
稲妻や秋の月の花ひとり　ゝ
稲妻や秋の月の花ひとり　ゝ



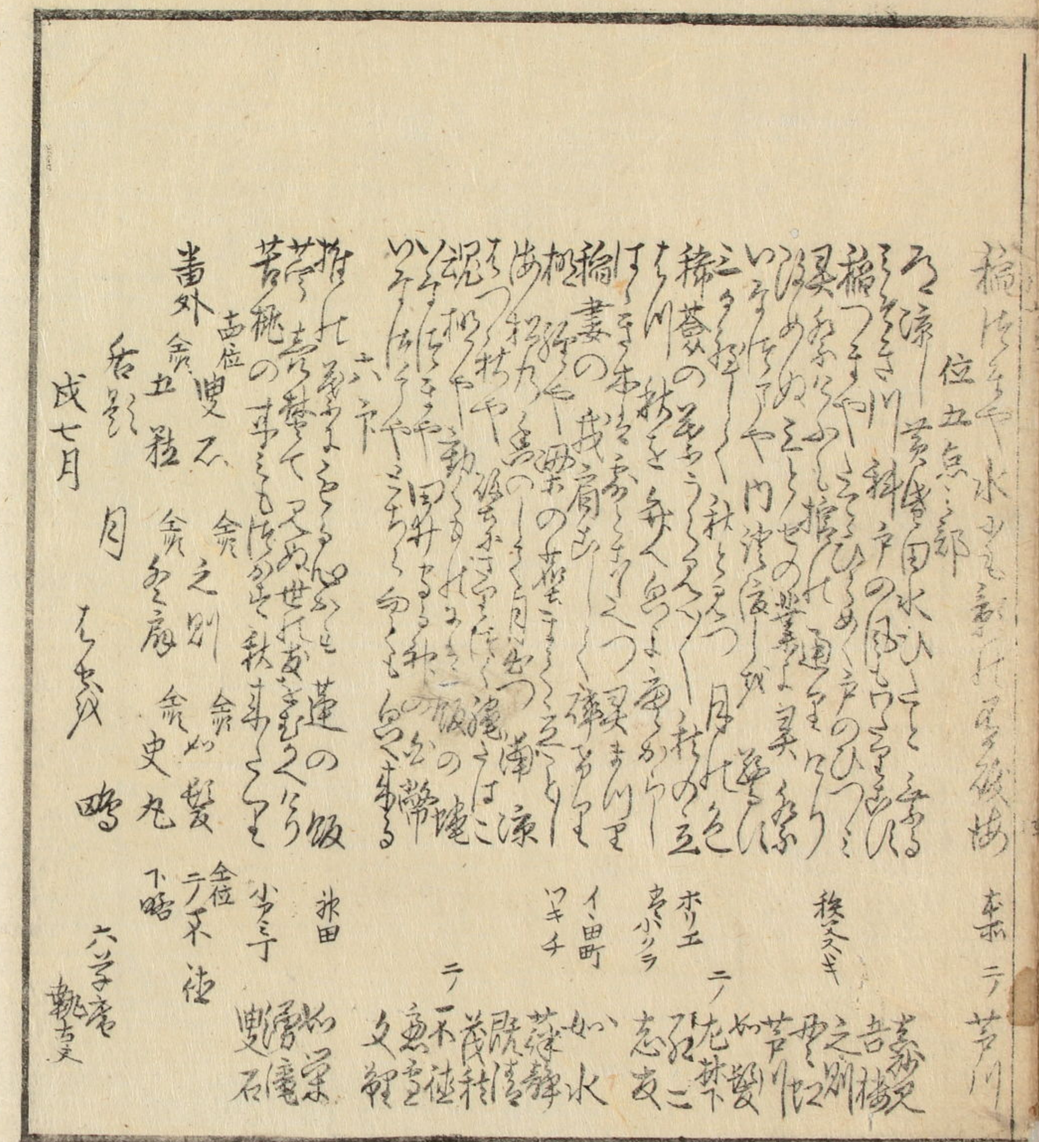




六芳庵判

俳句合

催主



六草菴評月次句合

戌八月分

外四点一句略六下

天位

時鳥 [illegible] 唐丹生 篤文

地

[illegible] 乕の子の [illegible] 芭蕉 ミノワ 青甫

人位

[illegible] 時鳥 川 [illegible] 柳田 下谷 紫峰

四点二句略六下

五点之部 [illegible]

[illegible] 時鳥の [illegible] 冬楓

[illegible] 一文

[illegible] 時鳥の [illegible] 花吉

[illegible] 其暁

時鳥 [illegible] 芦川

一 時鳥 [illegible] 素兎

一 月 [illegible] 宵志

[illegible] 二里 [illegible] 一暁

時鳥 [illegible] 花華

仏 [illegible] 青蒲

[illegible] 仙 [illegible]

[illegible] 旧楂

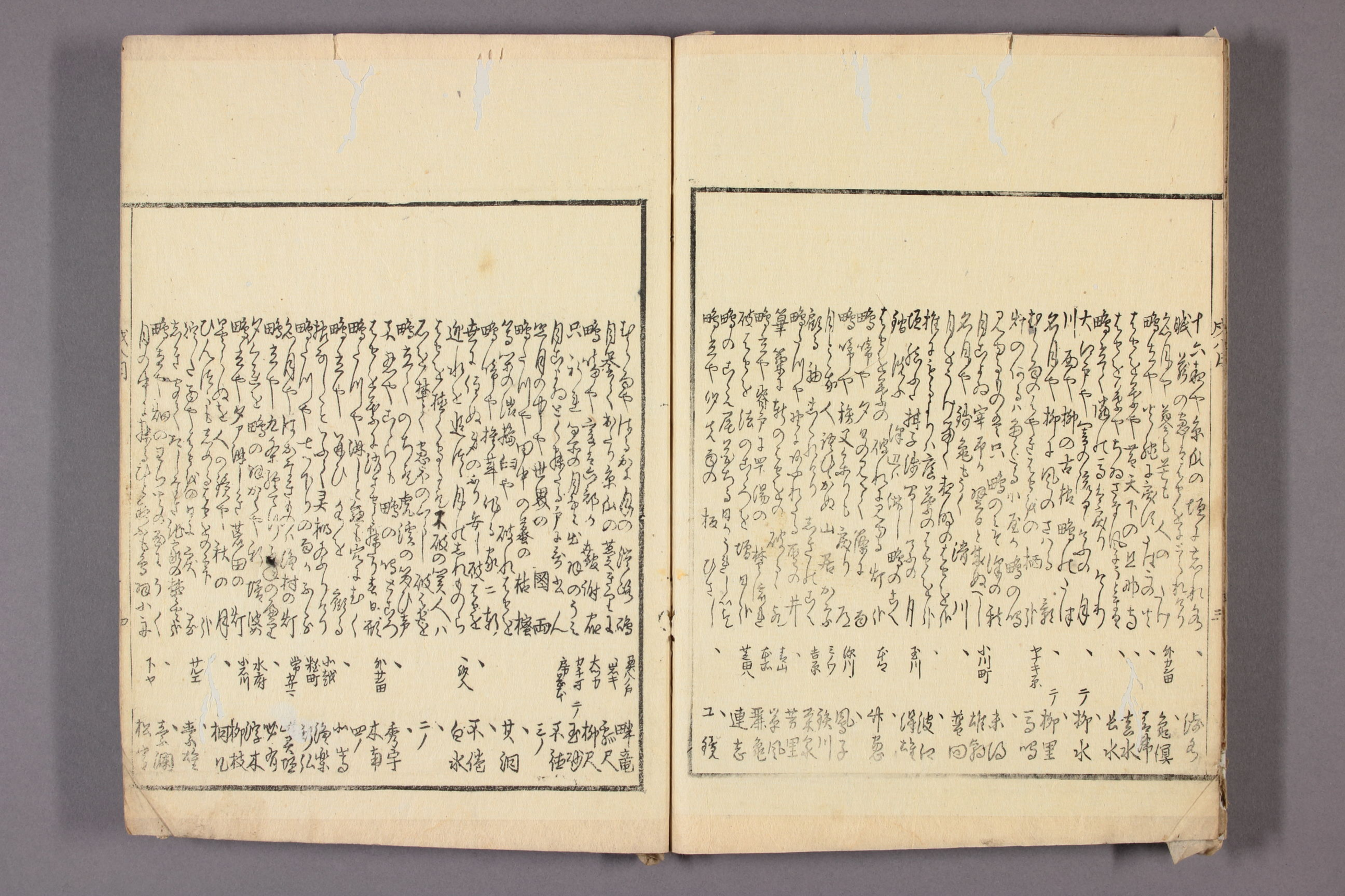
撰主

六草菴 [illegible]

發句合

略

牛つ
大つ力
恋の原
新田
不黄
静
一里
一歩
孫川
下ヤ
上毛山中
三ノワ
松
亀
橋
千鳥
二見
九タ坂
イタ町
アヤセ
亀戸
強上京
丹ノ千山
亀山
三ノ
四ノ
柳
滝也
亀
白
橋
里
田



名にしおふ月や無情の里みてくも　、左ガラ　勿必
鴫立や縁をかける夕ぐさま
志きさなし縁の水や衛の去　、芝原　路虫
鴫立つ身や浮世紛ける茶毘ふる　ヱ兵　秋室
月の如くならぬ蓮の枯葉の　喜多　子文
立つ物や月に影なき喬　、テ　喜牛
鴫の音や何おくれなしぬ人　　幽子
池もくや笑ひん京の月　、　巴芝
鴫立や宿より持られ聞ゆる
しみ見まれゆくも染つ生画のやし　アメヲト　二ノ
鴫立つ浮や菜種の油かけるく　、　標陽
いそのかきふき鳴も浅るとも小　　定訟
鴫立やうつしの影さる　袋　采　、　未逸
むきさんや千本着の月光の樹々満つ　、　淡々
遮ぐく昇る浴も月かなんてよ　ツキナ　薙萍
名の月や界つくろふてよ観音会
わかれ下らぬ茅生や破れるを　下ヤ　枕雪
鴫立つや何ぞれ月よ　嵜　引　芝ヲヲ　上毛ダラ　砂文上
月を見ぬ人さまりのあらはかる　、　竹牧
その文字一つかも知し破れるを　奥岩キ　鬼明
芭蕉裂くものなく月とてあるらう
鴫立つ川や備ふ出しさ洗　　東里
月浮のやのも川のしき笑子椽　　九禁
位五泉く郎　射州
鴫立や捧ゆくうき布るかしくる　六ノ　不争
鴫立つ川や雫をやける様の今　　樊圃
呉子笠みて帰るさ行る自の空
月さなきにつれ出るしん鴫ろうつ
紙くる子きうたるく何京　上毛州　耕袖
川縁の椅子見かけよ鴫　　鳥同

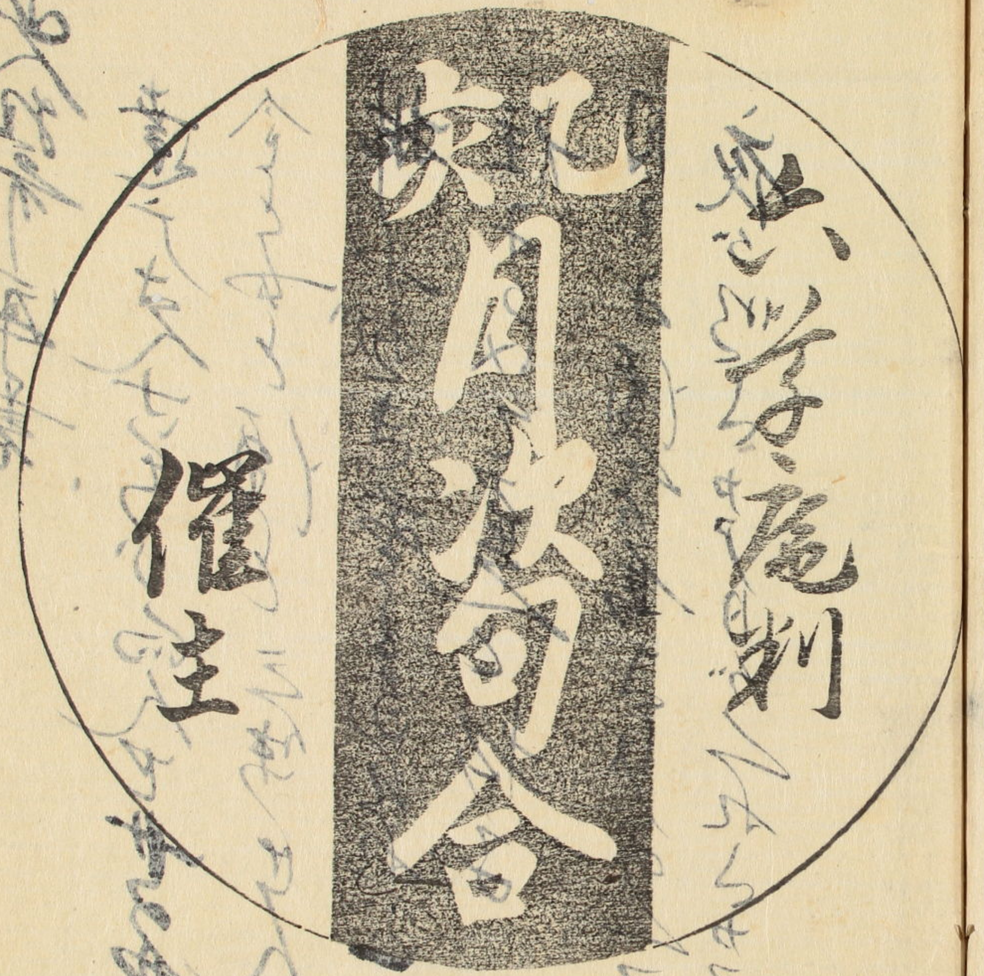
鴫立つ川や田面の月の泥よろしく　下ヤ　萬風
鴫立つや前方もの心ふく畔を過ぐ　　嵐萬
月近ねる後の諸の潮湯に点る　、　汰檀
鴫立つやわれの手先の貝ひらふ　　梅流
いやしくも尻たくね月の程の宮　、　曳石
今宵くみゆる名のも取られ月　　一明
ふちもとかくや方一丈の面影く　上毛州　女
月近くなる心れ芒もつかゝらん　、　云笋
行れ萬紫　　　　　　　枝　　ヒノ　傍僊
鴫立や田ヘ見の道れ四千鳴　ミノワ　柳本
何ゆく　ともゆる事も何もゆる　西京　碧蘭
明らいや志らね自身の夜ひとり　二　秀峯
名月や仰ぎ何もし後夜　　為文
いそ信さやさしけの月れ豹子ふり　下ヤ　静京
ち紫の絵萬やみらし梯を一味得　老番衣　花寂
鴫立ろし稲刈縁のそちらしけ　　大蛍

六卞
去安ハ發し田舎も月を浮む　ヒノ　不争
鴫の夕べ見る人さまれく義志る　　石渡　二
鴫立つく撓む籠の萬の実鳴きらるハ　　為文
ろのまぶせぬとてあらるゝの心より列に書　　紫峰
萬るゆくそ新しく破るまゝもおかし

畫外
西位　一明
金沢　左楚、樊圃、鳥同
、芝風、雙石、潜游　下略
吾影　菊　本をめくく　蕉し水

戊八月

六字庵
撰文


紀月次會

[illegible]

遠ざかる世の中に
[illegible]人
[illegible]と[illegible]と[illegible]と[illegible]三体[illegible]

掛ふ[illegible]き[illegible]ま[illegible]れ、一句

柱より[illegible]て[illegible]と[illegible]

月[illegible]と[illegible]酒[illegible]を[illegible]舊[illegible]

夜[illegible]ぐ[illegible]ま[illegible]ア[illegible]月[illegible]で[illegible]れ[illegible]ア[illegible]

六草庵評月次句合

乙亥五月分

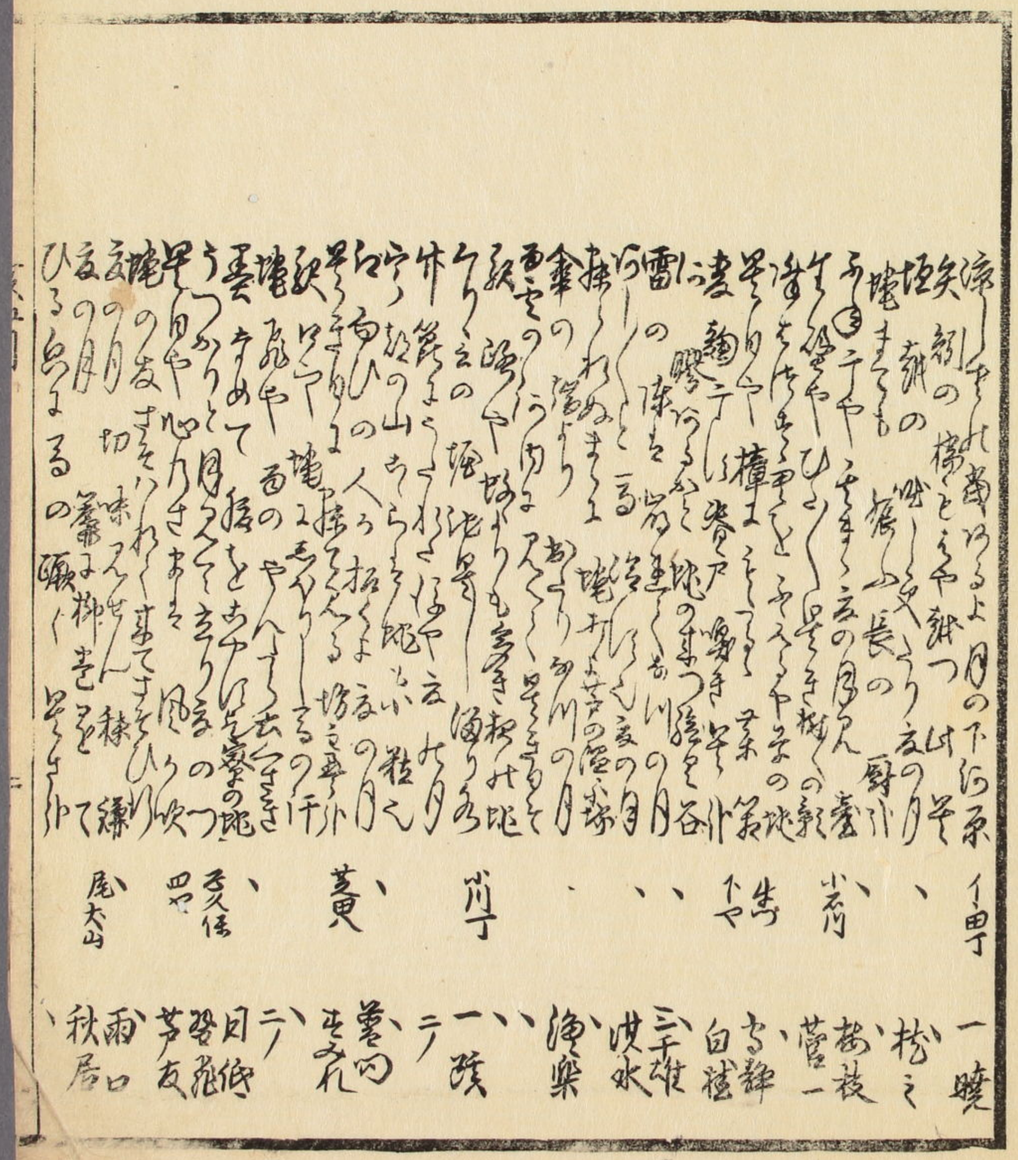
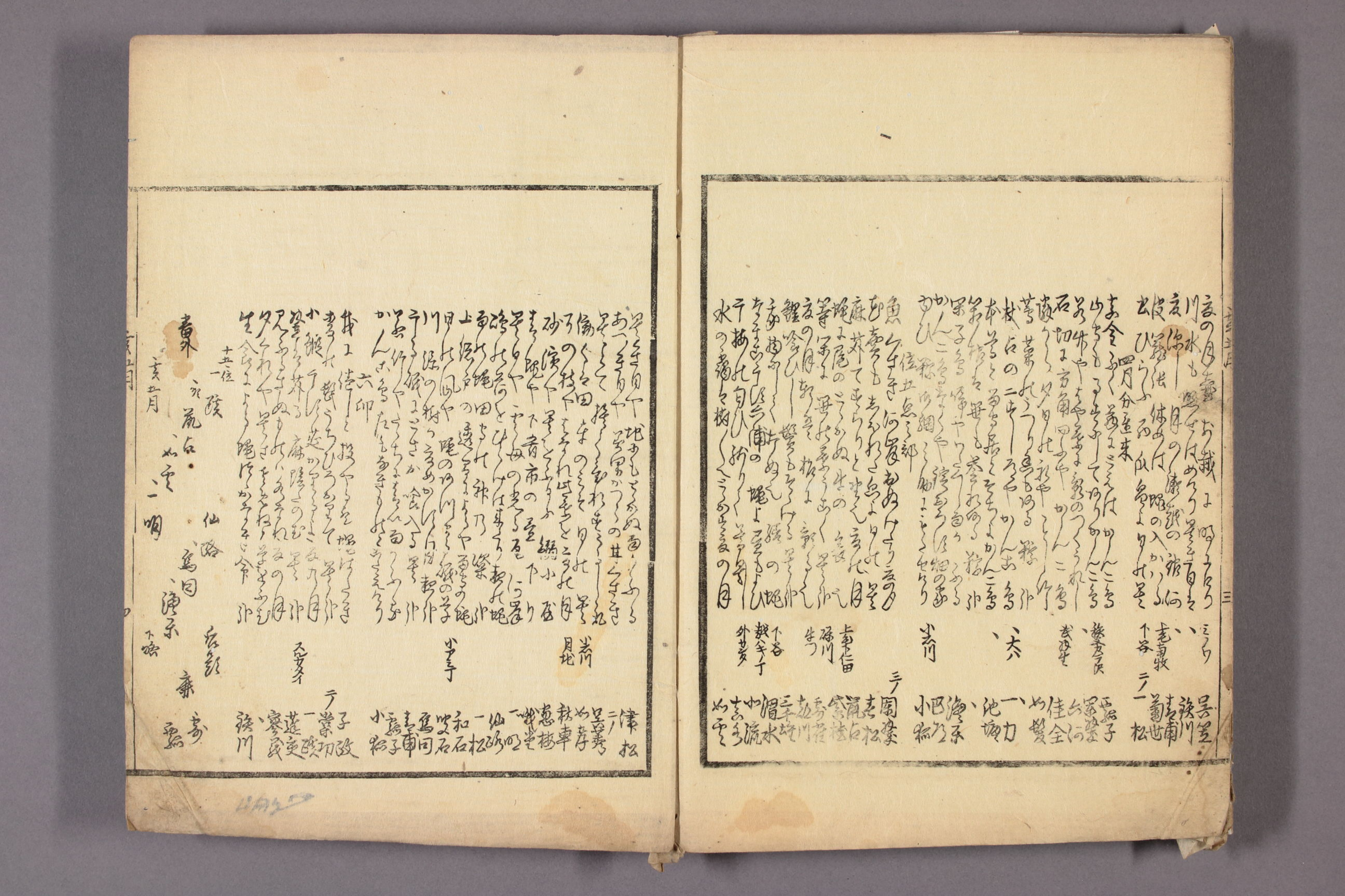
四点客六印二句奥記

天　水鹿よ二雲流りてる句ハ　三ノ海　寒義

地　外四点一句客六下　一点三海　子政

人　松竜もかせた塊のふえる伏家ハ　武政生ニ　棠功

須　おこ同

五点こ部

[illegible]